

広野神社の天狗

県立大学から西に向かうと、県立美術館から下りてくる道にぶつかる。これを北へ向いておりていくと、最初の信号のある交差点が出る。この道を今度は西へ向いていくと、橋がある。『サイカチ橋』という。むかし、このそばにサイカチの木があったからだが、通りも『サイカチ通り』と言う。さらに西にいき、東名のガードを抜け、左に見えるのが『広野神社』である。国吉田村の鎮守さまなのだが、この社のそばに昔『天狗の松』があったのだ。

『山門のない桃源寺』

明治時代に、台風で倒れたといわれているが、江戸時代の絵図には確かに出ている。

同社と、ちかくにある『桃源寺』とは、とかくの因縁があり、いまも天狗様がいた証拠がみられるのだ。

それは、桃源寺に山門がないことである。むかし、広野神社にすんでいた天狗が、自分より高い場所にあるこの寺をねたみ、山門をつくらせず、造るたびに壊したとか。それでいまも、桃源寺には、山門がないそう。普通禅宗の寺には『不許葷酒入山門』という碑があるものだが、山門がないため、酒やニンニクを境内に持ち込めるといって、いまでも

谷田風土記

地元の人は花見で同寺にはいって行く。

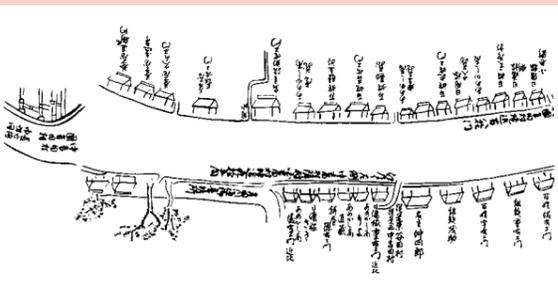
『隣に県大宿舎』

寺の横に県立大学の教員住宅もあり、景色と風光はまさに天下の絶景である。

広野神社はヤマトタケルが東征のときに参拝したという古い神社があり、地元の厚い信仰をあつめているが、いまもさまざまな大樹があって古社の風格をしのばせている。

天狗のいたという『大松』を描いた古図面に確かに『松』はある。

(国際関係学部教授・高木 桂蔵)



古図面と大松(左隅)

75

薬学部1年生学外研修

薬学部製薬学科1年 鈴木 一裕

7月10日、台風直撃の中、国立がんセンターに引けをとらない設備を持つ、学外研修の地、静岡がんセンターに向かった。帰りに富士山に寄るはずだったが、台風のために中止になり残念であった。がんセンターでは、A班、B班に分かれ、総長のお話を聞いたり、がんセンター内を見学した。案内して下さった方もとても丁寧に説明して下さい、将来ここで働いてみたいなどと思った。一つ一つの個室が予想以上に広く、ホテルの部屋を思わせた。医師、看護婦、薬剤師、その他の技術者などによるチーム医療を目指し、院内に庭園や図書室や情報コーナー、相談センターなどがあり、患者のことがよく考えられているなどと思った。こんなに整備されている所なら住んでも良いと思う人もいた。

秋に開院ということもあり、まだ全ての機能が整っているわけではなかったが、この時期だからこそ色々見学することもできたし、将来、医学に携わる薬学生として非常に貴重な体験であったと思う。



学内ニュース「はばたき」への寄稿を大歓迎!

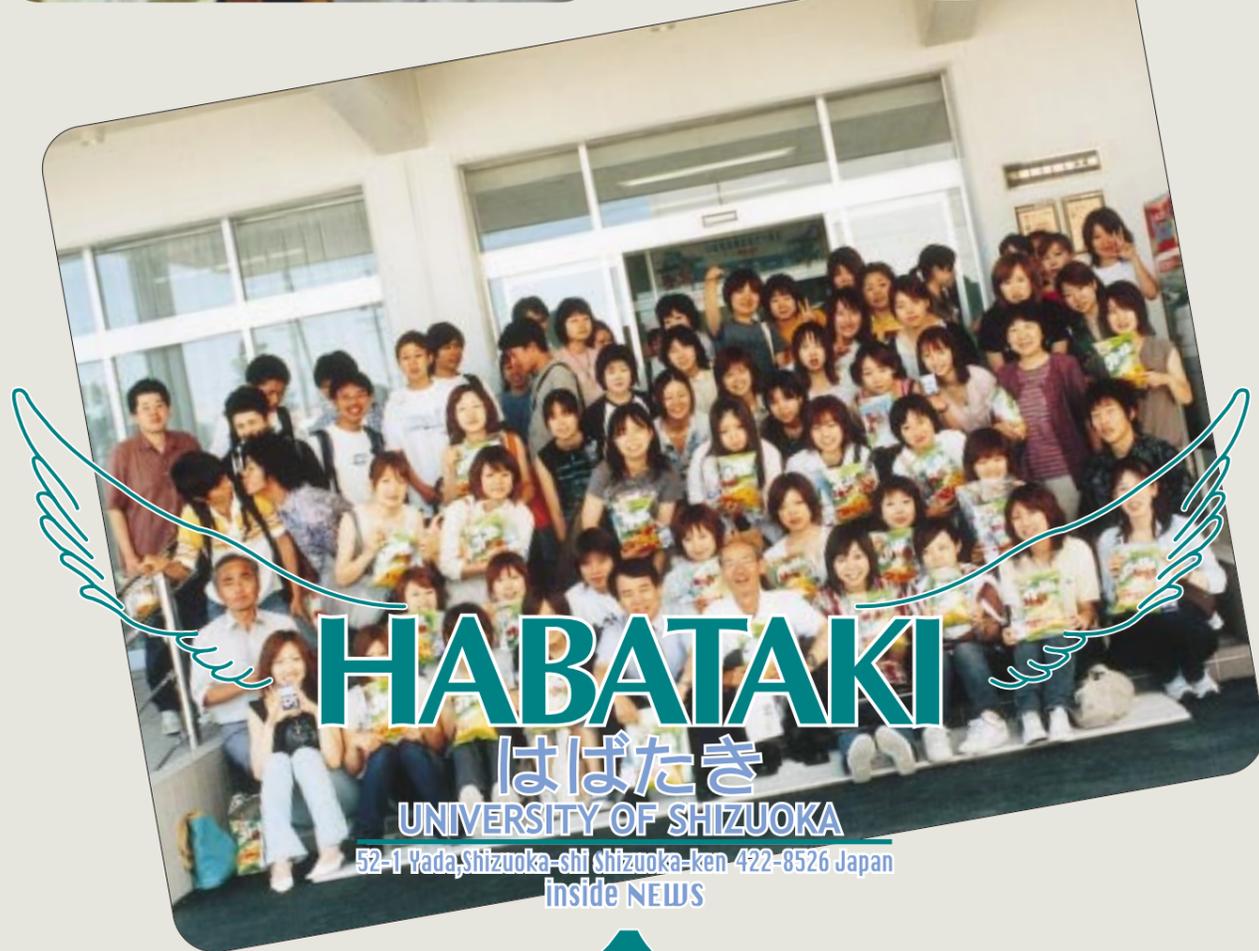
教職員・大学院生の皆様の受賞、研究助成への採択、学会・研究集会の案内、クラブ・サークル、その他寄稿を積極的にお寄せ下さい。大歓迎します。

事務局経営課・企画スタッフ(管理棟2階)法月あてをお願いします。

E mail:kijo4@gm.u-shizuoka-ken.ac.jp

企画・編集 静岡県立大学広報委員会 TEL 054-264-5103

静岡県立大学ホームページアドレス: http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp



CONTENTS

オープンキャンパス.....	1	受賞.....	14
キャンパスツアー.....	2	科学研究費採択状況.....	15
環境科学研究所一般公開.....	2	図書館だより.....	17
静岡大学大学院との単位互換始まる.....	2	心肺蘇生法講習を受けて.....	18
薬学部の動き.....	3	生活健康科学研究科環境物質科学専攻研究室公開.....	19
食品栄養科学部の動き.....	5	病院実習を終えて.....	19
ファーマカレッジ2002.....	7	シンガポール航空の機内にて.....	20
産学連帯推進事業に決定.....	8	研究室・ゼミ紹介.....	21
名誉教授の称号授与.....	9	院生からのメッセージ.....	22
研究助成の採択.....	10	新入生20人に聞きました.....	23
教員の人事.....	10	第16回剣祭.....	25
奨学金.....	11	クラブ・サークル(サッカー部・写真部).....	26
21世紀の国際社会を考える.....	13	谷田風土記75.....	27
スピーチコンテスト・文芸コンクール募集.....	14	薬学部1年生学外研修.....	27

オープンキャンパス開かれる

本学への入学希望者を対象として、学部の説明や施設見学を行うオープンキャンパスが8月6日から8日まで開催された。説明会は各学部ごとに開かれ、薬学部、食品栄養科学部が8月6日(火)、国際関係学部、経営情報学部が8月7日(水)、看護学部が8月8日(木)に実施した。参加者は3日間でのべ1678名であった。

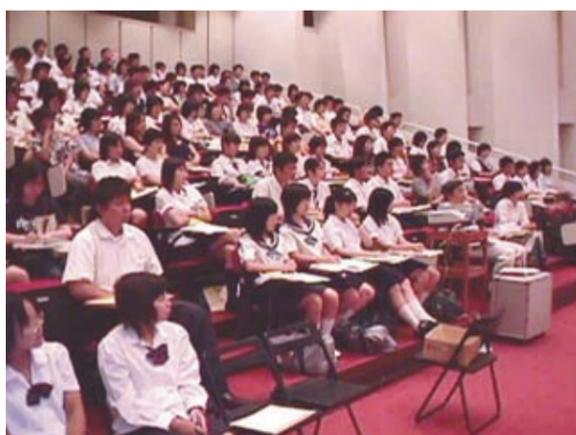
参加者は入学を希望する学部ごとに集合し、学部長や入試担当教員から学部、学科ごとの特徴と授業内容、また入学者選抜に関する説明を受けた



後、教員や学生の案内でグループごとに分れて学内を見学した。

学内見学では研究室や実験室、実習室の見学、研究内容の説明、LL教室での模擬授業、コンピュータ実習室での機器操作、また在学生による専門コースの説明や、キャンパスライフなどの紹介が行われた。

また、学生部には相談コーナーが設けられ、参加者は入試や、学生生活、留学などについて熱心に質問していた。



県民の日事業

明治9年8月21日に静岡県が誕生したことを記念し、平成8年度に制定された「県民の日」の諸行事が、8月21日(水)を中心に県内各地で開催された。本学では、大学構内見学会の「キャンパス・ツアー」と「環境科学研究所の一般公開」が行われた。

県大の探検ツアーを開催！「キャンパス・ツアー」

8月21日(水)の「キャンパス・ツアー」は、日頃から県大に関心を持っていただいている県民の皆様にも、県大のキャンパスを探検していただこうと開催している企画で、今年も県内各地から小・中・高校生から高齢の方まで37名の参加があった。参加者は3グループに分かれて大学職員の誘導により各学部棟や図書館、学生ホールなどを見学した。研究室では教員から説明を受けたり、またLL教室やコンピュータ実習室では模擬授業を体験するなど、県大の施設、設備や研究内容などに感心していた。参加者からは「近所に住んでいますが見るのは初めて。県大が身近に感じた」「素晴らしい環境と施設でした」などの声が聞かれた。



身近な環境問題を考えよう「環境科学研究所一般公開」

8月24日(土)に開催した「環境科学研究所一般公開」では、「身近な環境問題を考えよう」をテーマに、環境問題について県民に研究内容の理解を深めてもらい、一般県民に親しみをもらうため、13研究室が公開、研究内容の展示、デモンストレーション実験の紹介を行った。238人の参加者があり、公開内容についても参加者

から「わかりやすかった。」と好評をいただいた。



静岡大学大学院との単位互換制度が始まる！

本学大学院の薬学研究科と生活健康科学研究科は平成14年10月より、静岡大学大学院農学研究科と理工学研究科との間で単位互換制度をスタートさせることになった。現在までに静岡大学とは学部(国際関係学部と経営情報学部)間では実

施されていたが、今回初めて大学院の間で「相互の交流と協力を進め、教育のより一層の充実を計ること」を目的として実施されることになった。大学院生の積極的な受講を期待したい。

薬学部の動き

薬学部長 辻 邦郎

昨年（2001年）6月、いわゆる、遠山プランが文部科学省から発表され、大学ではまさに平成の大改革が進行中です。「大学（国立大学）の構造改革の方針」である1.大学の再編・統合 2.大学の独立法人化 3.第三者評価による競争原理の導入は国立大学を対象としたものですが、公立大学もその潮流に巻き込まれるのを避けることは出来な

いでしょう。一方、薬学部を取り巻く環境も大転換の時期を迎えようとしています。その第一として、薬学教育6年制問題があります。この問題に関しては10年以上議論されてきましたが、今年1月に各関係者（6者懇：文科省、厚労省、日薬、日病薬、国立大・薬、私立大・薬）において解決すべき課題について整理、確認され、それを受けて各関係組織が具体的に活動を始めました。

近年の医療の高度化、あるいは医薬品の創製・適用における先端科学技術の進歩は目覚ましく、薬剤師、薬学研究者の役割はますます重要となってきました。それに対応するために、各薬系大学は薬学教育の質を高め、国際化、情報化社会に適應できる人材を育て、社会の要請に応えなければなりません。

薬系大学で先ず解決しなければならない問題として、カリキュラム、長期実務実習のあり方等があります。カリキュラムについては、薬学で教育すべき内容をまとめた「薬学教育モデル・コアカリキュラム」が近々出来上がる予定です。その内容は膨大で、現在の4年間教育で修了することはとても無理で、6年制への移行は必然的と思われる。6年制を4+2とするのか、6年一貫とするかについては、未だ結論はでていませんが、文科

省は全国の薬系大学に対しヒヤリングを開始したようです。これはあくまで私の予測ですが、4年後には薬学6年制に移行するやもしれません。

また、新規薬学部の開設（平成15年度開設：九州保健福祉大学・薬学部 定員120名、就実大学・薬学部 定員150名）や既存薬学部の定員増が検討されています。現在は医薬分業の過渡期にあり、薬剤師の不足は深刻ですが、近い将来確実に薬剤師は余ってくる事が予測され、まさに生き残りをかけた競争が始まろうとしています。

次に、最近の本学薬学部の動向についてお知らせします。

1. 臨床薬剤学講座の新設

平成4年（1992年）医療法が改定され、医療の担い手としての薬剤師の重要な立場、役割が明確に規定されました。本学薬学部には病院・薬局の業務に精通した教員がいませんでしたが、本年、熊本大学薬剤部長の中野眞汎教授をお招きし、臨床薬剤学講座を新設しました。また、県立総合病院内に研究室を設置し医療薬学分野の充実を図りました。

2. 1年生学外研修（7月10日）

従来、新入生の学外研修には県費の補助があり、一泊二日の研修を行ってきました。しかし、本年度からはそれがうち切られたため、薬学部後援会の支援による日帰りの学外研修となりました。計画では9月開院予定の「静岡がんセンター」を見学後、富士山五合目に行く予定でしたが、その日は丁度台風が接近中で風雨が激しく、がんセンターの見学を終え直ちに帰校しました。バス4台で出かけましたが、それぞれのバスにはアドバイザーの教員（総勢20名）も

乗車して頂き、行き帰りのバスで親密に話しが出来たのは有意義であったと思います。

3. 夏休みファーマカレッジ2002（8月1日、2日）

高校生を対象とした、第4回体験入学「体験おもしろいぞ！薬学」を開催しました。30名の募集に対し、62名の応募者がありましたが36名を選び実施しました。本年は6講座が担当し、二日間にわたり各講座6名の高校生の指導を行いました。最終日には発表会、交流会を行いました。高校生にとっては初めての貴重な体験となったことでしょう。

4. アドバイザー制度の充実

薬学の面白さ、重要性を認識させ、倫理性のある薬剤師を育成するには、教室の講義だけでなく教員、先輩との直接の会話の機会を作ることが重要と考え、本年度より、教員1名につき1～3年生の各学年2名という少数の学生のアドバイザー制度を設けました。1年次より自由に研究室に出入りできる環境を整え、きめ細かい適切な指導を行い、人格形成に役立てばと思っています。

5. 病院・薬局実務実習1ヶ月へ延長

昨年度までは、3年次に病院実習を2週間行ってきましたが、本年度より4年次にも病院実習3週間、薬局実習1週間を行うことを必須としました。実習病院は県内41病院、薬局は147薬局に受入をお願いし、4年生を2班に分け実施しました。

6. 薬学会東海支部大会の開催（7月6日）

薬学会東海支部の幹事校として、支部総会、大会を開催しました。特別講演は「静岡がんセンター」の山口 建総長をお願いし、「静岡がんセンター」は、日本一の設備とスタッフを揃えた素晴らしい病院であることが紹介されました。

また、生化学教室の左 一八先生が学術奨励賞を受賞され、受賞講演が行われた。一般講演は4会場を使用し、合計64の研究発表がな



静岡がんセンター 山口総長の講義

れました。

7. 外部評価

今回の自己点検・外部評価報告書および各研究室の研究活動（教員個票）は、前回（平成9年）に行った自己点検・評価後の5年間における運営体制、教育体制、国際交流、社会活動等について再度、自己点検を行い、薬学部の現状について、外部評価委員による評価をうけました。

外部評価委員による薬学部・大学院に対する評価は学部全体、講座・研究室とも、いくつかの指摘事項はあるものの、総じて高い評価を受けた。今回、外部評価を受けたことにより、運営、施設、教育・研究、将来に向けた展望など今後、我々が取り組むべき問題点がより明らかとなった。



食品栄養科学部の動き

食品栄養科学部長 竹石 桂一



食品栄養科学部・同専攻の「外部評価委員会」風景の一コマ

食品栄養科学部は開設以来今年16年目を迎え、これまでに681名の卒業生を世に送り出して参りました。昨年度はほぼ一年間かけて本学部（大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻も合わせて）の自己点検・自己評価と外部評価を実施致しました。その結果、後述のごとく外部評価委員から本学部の研究・教育体制や研究業績に対しては良い評価を頂きましたが、一方ではいくつかの改善すべき点が指摘されました。今後、外部評価の結果も踏まえて、より良い教育・研究を行い、本学部が益々発展し、地域にも貢献できるよう一層努力していく必要性を痛感しているところです。

まず、食品栄養科学部の現状について少し述べますと、本学部の学生数は本年4月現在1～4年生まで合計で233名です。そのうち、男子学生が約17%であるのは淋しい限りです。一方、食品栄養科学部・大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻の教員数は、現在学部本務教員39名〔教授13名、助教授9名、助手17名；このうち32名が研究科兼務〕と大学院本務教員（学部兼務）8名（教授3名、助教授1名、助手4名）です。

昨年度末から今年度初めにかけてかなり助手の移動がありました。まず、2名の助手が栄転し、2名の助手が退職致しました。一方、臨床栄養学研究室に小田巻眞理助手（大学院本専攻出身者）、生理学研究室に林久由助手（本学部一期生）、そして微生物生産学研究室に杉山靖正助手が新たに着任致しました。

短期大学部浜松校の閉校に伴って、昨年4月に5名の教員が本学部に移籍し、4研究室が本学部に加わりましたが、移籍した4研究室を受け入れるための3階建ての新棟が、本学部隣接して昨年9月に完成し、10月に予定の研究室が

引っ越しを致しました。これによって本学部の狭隘状況が僅かながら改善されました。

次に、平成13年度は本学の全部局において自己点検・外部評価が実施されました。本学部は大学院の食品栄養科学専攻と合わせた形で行われました。前回の「自己点検・評価」が行われた平成6年以降、平成13年8月までの約8年間について「自己点検・評価」を行い、それを基にして「外部評価資料」を作成致しました。外部評価委員会は平成14年3月31日に開催されました。昭和女子大学教授（東北大学名誉教授）の木村修一先生に委員長を、その他に4名の高名な先生方に委員をお願い致しました。「外部評価資料」と実地視察結果等をもとにして、外部評価をして頂きました。その内容は食品栄養科学部・大学院食品栄養科学専攻の「自己点検・外部評価報告書」としてまとめられました。外部評価の結果、本学部の理念や教育体制、研究業績については、良い評価を受けました。一方では多くの改善すべき点が指摘されました。その主なものとして、（1）施設（各研究室、動物室など）の狭隘状況、（2）産官学連携の教育・研究における活用、（3）外国人留学生用、さらには日本人学生用の宿泊施設の整備・充実、（4）静岡県の国際交流事業の大学の教

員・学生への利活用、（5）研究の継続発展に不可欠な助手の増員、（6）産学連携を密にするための機構の構築、（7）学生による教員評価（授業評価）制度の導入などでありました。

大学院食品栄養科学専攻は大学院本務教員が担当する4研究室と学部本務で大学院を兼務している学部本務教員が担当する16研究室から構成されています。大学院食品栄養科学専攻の修士課程及び博士課程が開設される際にそれぞれ2研究室がいずれも大学院専任として設置されました。これは大学院を立ち上げ、軌道に乗せるまでは大学院固有の多くの問題があり、それに専念できる人がぜひ必要であるとの星猛初代研究科長のお考えに基づいています。本年は修士課程が新設されてから12年目であり、博士課程が新設されてから8年目で、食品栄養科学専攻もすでに軌道に乗ったと考えられます。一方では、事務的な面などにおいては食品栄養科学部の学部本務教員と食品栄養科学専攻の大学院本務教員とは、実際上は一つとして扱われることも多いのですが、教育・研究、さらには学部の運営上の点ではこれまで完全には両者の教員は同じ状態にはありませんでした。その結果として、いろいろ不都合も生じ、一体化すべしという意見も多かったのですが、大学院重点化などの問題とも絡み、なかなか一朝一夕には一体化することは困難でした。しかし、平成13年度末に大学院本務教員と学部本務教員との学部における教育・研究の完全な一体化が実現し、学部長の被選挙権も含めて同等になりました。

本学部栄養学科は厚生労働省及び文部科学省から、管理栄養士養成施設として新たに指定され、平成13年4月以降の入学者に適用されました。これによって、平成14年4月から施行された「改正栄養士法」においても、従来の栄養士養成施設の場合と同様に、卒業後ただちに管理栄養士の国家試験受験資格が得られることとなりました。

「改正栄養士法」の施行に伴い、重点が「給食管理」から「傷病者の療養に必要な栄養指導」に

移動致しましたが、それに対応するため、管理栄養士養成に関連する栄養学科のカリキュラムが大幅に、また、関連する食品学科の一部カリキュラムが改定されました。さらに、食品学科のカリキュラムについても学科独自の観点から一部改定が行われました。

昨年からの導入を検討して参りました高専や短大の卒業生等が本学部3年次へ編入学するための入学者選抜が、本年7月12日に初めて行われました。「若干名」の募集に対して予想をはるかに超える25名が受験し、2名の合格者が発表されました。本学部としては編入学生の向学心、特に卒業後は大学院への進学をおおいに期待しているところです。

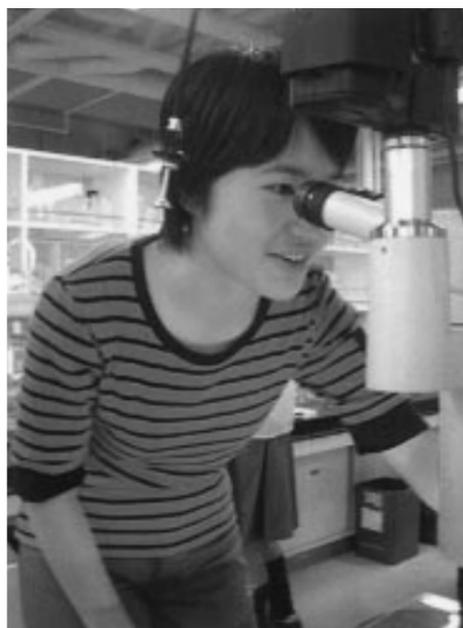
その他、本学部に関連した動きを2、3追加しますと、まず、本年度から文部科学省による「世界的研究教育拠点の形成のための重点的支援 - 21世紀COEプログラム -」がスタート致しました。本学も学長を先頭に、リーダーに指名された木苗生活健康科学研究科長を初めとして、食品栄養科学専攻を含む理系部局の教員によって「拠点形成計画調書」など大部の書類が作成され、申請が行われました。審査結果が待たれます。

次に、昨年秋から冬にかけて開催された第6回静岡健康・長寿学術フォーラム「ゲノム創薬と21世紀の医療」及び本学と浙江省医学科学院との交流の一環としての第5回日中健康科学シンポジウムが、それぞれ成功裡に終了致しました。今年度は第7回静岡健康・長寿学術フォーラム「健康長寿への自然科学、社会科学からのアプローチ」が10月25日（金）、26日（土）に開催される予定で準備が進められており、これにも本学部・同専攻の教員が実行委員などとして参画しています。

以上、最近約一年間の本学部の主な動きについてご紹介致しました。

「体験 ファーマカレッジ2002 おもしろいぞ! 薬学」

県内高校生を対象とした「ファーマカレッジ」は、本年度で4年目（第4回）となり、夏休み期間中の8月1、2日の2日間で実施されました。この「ファーマカレッジ」は、「薬学」のおもしろさや重要性を肌で感じられる機会を提供するものです。薬学部では、どのようなことを学ぶのか、また、どのような研究をしているのか？などを、実験を行いながら体験してもらうのが特徴です。本年度は「体験 おもしろいぞ! 薬学」と題して、薬学が医療や健康、環境や衛生などのさまざまな領域を包含する総合科学であり、また、最先端の生命科学の発展に寄与していることを理解してもらうことを主眼に以下の6つの研究課題を企画しました。



の続きの実験およびその結果整理を行い、午後1時より5時まで、各グループの研究成果の発表、討論を行いました。また、発表会の休憩時間（ティーブレイク）を利用して、参加生徒、大学院生、教員との交流を深めました。

最初は、はじめての研究仲間（生徒）、教員・研究室と、「はじめてづくし」で、緊張していた生徒も見受けられましたが、初日の午後には緊張もほ



（研究課題）

- A くすりの体内での動きを知ろう
- B 抗ウイルス薬をつくってみよう
- C 遺伝子を見てみよう
- D モデル動物を使って病気を診断してみよう
- E 鍵穴に合う薬を設計しよう
- F 体感! 特別科学捜査隊

例年「ファーマカレッジ」には多くの参加希望者がありますが、今年も8月1、2日の両日参加可能な人、定員30名で募集しましたところ、県内28校より65名と、多数の参加申し込み者がありました。学年や志望理由書などにより選考し、予定より6名多い36名に参加してもらいました。

第一日目の午前中には薬学部長の挨拶ののち、注意事項の説明、研究課題別グループ分け（6グループ）記念撮影などを行いました。午後には研究課題別にそれぞれの研究室に移り、研究課題に取り組みました。第2日目の午前中は、前日から

ぐれ、時折笑顔を見せながら、真剣に研究に取り組んでいました。

研究課題に取り組む生徒の姿は皆熱心で、これまで経験したことのない時間を過ごした充実感に満ち溢れているように感じられました。薬学のおもしろさや重要性を感じてくれたものと思います。

また、閉講時にアンケート調査を行い、参加した高校生全員から「ファーマカレッジ」に再び参加したいとの要望を頂きました。



文部科学省の産学連携推進事業に静岡中部エリアが決定!!

文部科学省が本年度創設した都市エリア産学連携促進事業に静岡中部エリア（静岡市、清水市、焼津市）が選定された。研究課題は「心身ストレスの克服を目指した高感度バイオマーカーを用いた評価システムの構築と食品、医化学品素材の開発」である。しずおか産業創造機構を中枢機関とし、研究機関は静岡県立大学（薬学部、食品栄養科学部、環境科学研究所）静岡大学（農学部、

理学部）、東海大学（海洋科学部）、農業技術研究機構果樹研究所カンキツ研究部、県水産試験場、静岡工業技術センターのほか地元の関連企業が参加する。研究代表者は食品栄養科学部の木苗直秀教授が務める。大学の研究力、技術シーズを生かして新たな産業の創造を目指しており、平成14年度より1億円ずつ3年間補助される。

名誉教授の称号授与



祐田 泰延先生
(前薬学部教授)

祐田前教授は、昭和42年3月京都大学大学院薬学研究科博士課程を修了し、同年4月静岡薬科大学に講師として任用され、以来35年の長きに亘り静岡薬科大学、静岡県立大学薬学部で研究、教育ならびに本学の発展に尽くされた。

祐田氏は、主として環境衛生学の領域に新しい生化学的手法を応用発展させ、多彩な研究を展開してきた。鉛、ベリリウムを始めとする各種重金属の生体毒性発現機構の解明、植物を指標にした大気中フッ化物汚染の環境分析、さらに最近では、成人病発症における環境因子の作用機構解明を目的として、高血圧発症時におけるナトリウムポンプの機能変化の解析、腎上皮細胞および神経細胞における糖輸送体の制御機構に関する研究などを精力的に行ってきた。その研究成果は80編を超える論文として発表され、多くの研究者に多大な影響を与え、またその分野の発展に大きく貢献された。

教育に関しては公衆衛生学、環境毒性学、環境生化学、産業衛生学特論(大学院)等の授業を担当し、学部および大学院学生の薬学教育に尽力するとともに、多くの後進の指導育成にあられた。学会活動では、日本産業衛生学会、日本生化学会、日本大気汚染学会、日本薬学会などで活躍され、平成9年に日本水環境学会功労賞、平成14年3月に日本薬学会第122年会において日本薬学会教育賞を授与された。



森田 全先生
(前環境科学研究所教授)

森田前教授は、昭和34年4月に静岡薬科大学に助手として採用され、昭和43年6月に静岡薬科大学講師となられ、昭和46年には酵母ミトコンドリアDNAに対する発癌物質の作用機構に関する研究で医学博士の学位(九州大学)を授与された。平成3年4月、大学院生活健康科学研究科の新設にあたり、環境物質科学専攻の環境微生物学研究室主任教授に任用され、環境微生物学、細胞性免疫学等の特論講義を担当された。平成9年4月からは環境科学研究所を本務とされ、環境微生物学を主とした教育に努力を傾注すると共に、ウイルス遺伝子の定量的検出に関する研究を推進され、HIV感染患者治療への臨床応用、魚介類や環境水中の病原性ウイルスの定量による環境モニタリング研究に精力的に取り組まれた。

大学での役職としては、評議員を3年間、環境科学研究所長を2年間努められた他に、国際交流委員、組換えDNA実験学部等安全主任、その他を歴任され、大学の管理運営や教育に熱意をもって当たられた。

学会活動では、国際エイズ学会、日本エイズ学会、環境科学会、日本環境変異原学会等の会員として幅広く活躍された。

社会活動としては、静岡県地球人会議役員、しずおか県民カレッジ・環境学習サポーター養成講座講師、環境研究交流しずおか集会委員等の他に、県立大学公開講座および特別講座の講師も務められた。



志田 直正先生
(前国際関係学部教授)

志田前教授は、東北大学大学院文学研究科博士課程を修了され、昭和42年4月に静岡女子短期大学に着任し、以来本年3月まで、静岡女子大学、静岡県立大学を合わせ、県立3大学において、35年にわたり社会学の教育と研究に従事された。

静岡県立大学では、国際関係学部教養科評議員として教養科を代表し、本学の教養教育の改革ならびに教養教育実施組織の改組転換という難局にあられた。国際関係学部教養科改組後は、国際関係学部評議員として、また付属図書館長として、大学運営に多大の貢献をされた。

志田氏は、人間生活の基盤である地域社会の研究で知られる。都市化、産業化、少子化、高齢化

等、押し寄せる時代の波の中での地域社会について、地域の特性を踏まえた数多くの研究成果を発表されている。また、行政と関わるその研究姿勢は、研究成果と実践の架橋という文科系研究者にとって重要な視点を提供し、後進に大きな刺激と影響を与えるものであった。

また、志田氏は、日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会等において広く活躍されるとともに、静岡県社会福祉審議会委員、静岡県総合計画専門部会「長寿社会」委員をはじめ、数多くの行政審議会、委員会の委員として活躍され、地域社会の発展に多大の貢献をされた。して幅広く活躍された。

社会活動としては、静岡県地球人会議役員、しずおか県民カレッジ・環境学習サポーター養成講座講師、環境研究交流しずおか集会委員等の他に、県立大学公開講座および特別講座の講師も務められた。

研究助成の採択

平成14年度 財団法人 薬学研究奨励財団 天然物化学国際会議派遣援助金
薬学部生薬学教室 阿部 郁朗 講師

本年7月28日から8月2日にイタリア・フィレンツェで開催された第23回IUPAC国際天然物化学会議に出席し、「植物由来ポリケタイド合成酵素の触媒機能の多様性と非天然型新規化合物ライブラリーの構築」の演題にて研究発表を行った。

教員の人事

就任

(6月1日付け)
杉山 靖正 食品栄養科学部助手
(9月1日付け)
東川 佐枝美 看護学部講師
新保 真理 食品栄養学部助手

昇任

(8月1日付け)
湯瀬 裕昭 経営情報学部助教授

奨学金をありがとうございます

「日本平留学生基金」入学祝金贈呈式

日本平留学生基金（代表イトウ秀雄氏）は5月22日、本学へ今年入学した留学生14名（国際関係学部10名、経営情報学部4名）に入学祝金を贈呈した。

日本平留学生基金は、県内に留学する主として東南アジアの大学生に金銭的援助を行うことを目的として、平成8年1月、イトウ秀雄氏の遺暦記念に設立された基金で、今年で7年目を迎える。イトウ氏の基金募集の趣旨に賛同した協力者は400を超える個人・団体にのぼる。入学祝金は、学部への新入留学生全員に一時金として1万円が支給される。

贈呈式でイトウ代表は「留学で何をすべきか見極め、将来自分の国のために尽力できるよう頑張

ってほしい。」と挨拶し、祝金を留学生一人一人に手渡した。

留学生を代表して、国際関係学部のレストウ・ワヒュニンシさんが「私達留学生に対してのご理解とご協力に心から感謝します。県立大学留学は人生の中での大きなステップです。大きな目標を目指し、頑張ります。」と感謝と決意の言葉を述べた。



「富士川町静岡県立大学留学生就学奨励金」交付式

富士川町文化事業振興会が支給する就学奨励金の交付式が6月1日、富士川町中央公民館で行われた。

この就学奨励金は、本学に在学する優秀な留学生に総額100万円を交付し、留学生の教育・研究活動を支援するとともに、富士川町が主催する事業を通じて、留学生と富士川町民との相互の心の触れ合いを深め国際交流を図ることを目的としている。

支給にあたっては、長期にわたる留学生・富士川町民の交流を図るため、学部1年生を優先している。今年度は学部1年の留学生14名全員に1人あたり7万1千円が支給された。

交付式では、秀村敏朗富士川町文化事業振興会長、坪内伸浩富士川町長が挨拶し、受給者を代表して、国際関係学部国際関係学科1年の郑宏盛さんがお礼の言葉を述べた。

今後、留学生は富士川町民との交流会や、小中学校で行われる児童、生徒との交流会に参加して富士川町民との交流を図る予定である。



「静清信用金庫奨学生」認定書授与式

静清信用金庫奨学生認定書授与式が6月17日に静岡市の静清信用金庫本部で行われた。

本奨学金は、地域に生きる静清信用金庫の基本方針に従い、次代を担う人材育成に寄与することを目的に設立され、今年度で6回目を迎えた。

「環境」を論文テーマに募集が行われ、食品栄養科学部3年坂田とも子さん、国際関係学部3年林智子さんが採用された。

授与式では、静清信用金庫の高橋晋理事長から

認定書を贈られ、奨学生からは「将来は管理栄養士を目指しています。奨学金はその勉強のため有効に使わせていただきます。」(坂田さん)など、それぞれがお礼の言葉を述べた。



「TOKAI奨学金」目録授与式

株式会社TOKAI奨学金目録授与式が6月21日に本学応接室で行われた。

本奨学金は、TOKAIによる地域に密着した企業としての事業の一環として設立され、今年度で11回目を迎えた。

「少子・高齢化について」を論文テーマに募集が行われ、薬学部2年長野一也さん、生活健康科学研究科修士2年渡辺誠さん、経営情報学研究科修士1年高雪輝さんが採用された。

授与式では、株式会社TOKAIの岡野憲正常務取締役から目録を贈られ、奨学生からは「論文

を通じて認められ、喜びを感じるとともに責任の大きさを自覚した。更に薬学の勉強に励み、将来に生かしていきたい。」(長野さん)など、それぞれがお礼の言葉を述べた。



「静岡ガス奨学生」認定証授与式

静岡ガス株式会社奨学生認定証授与式が6月28日に静岡市の静岡ガス株式会社本社で行われた。

本奨学金は、静岡ガスによる社会有用の人材育成に寄与することにより地域社会への貢献を図ることを目的に設立され、今年度で3回目を迎えた。

「自分自身の将来像について」または「環境問題について」を論文テーマに募集が行われ、国際関係学部3年加藤奈保さんが採用された。

授与式では、静岡ガス株式会社大石司朗取締役

社長から認定証を贈られ、奨学生の加藤さんが「将来は観光産業に携わりたい。」と抱負とともにお礼の言葉を述べた。



「天野回漕店奨学生」認定書授与式

株式会社天野回漕店奨学生認定書授与式が7月18日に本学応接室で行われた。

本奨学金は、天野回漕店による「共存共栄」を経営理念の一つに掲げ地域社会の発展に努め、地元静岡県にて勉学する学生の奨学奨励の一助に寄与することを目的に設立され、今年度で8回目を迎えた。

「発想の転換による港づくり」または「多視点で見た自分について」を論文テーマに募集が行われ、国際関係学部3年杜堂さん、国際関係学部2年高彬芳さん、経営情報学部3年王超群さんが採用された。

授与式では、株式会社天野回漕店の小松信介取締役社長から認定書を贈られ、奨学生からは「奨学金で生活費を心配しないでゼミの研究に打ち込むことができます。」(杜さん)など、それぞれがお礼の言葉を述べた。



「東海澱粉国際交流奨学基金」目録授与式

公益信託東海澱粉国際交流奨学基金目録授与式が7月24日に静岡市の東海澱粉本社にて行われた。

本基金は東海澱粉により静岡県内の大学院に在学しているアジア諸国からの留学生への奨学金支給を目的として平成10年4月に設定された。

同基金の運営委員会の審議を経て、本学からは生活健康科学研究科修士2年雷雨静さん、国際関係学研究科修士1年王戈さんが採用された。

授与式では目録が贈られ、奨学生からは「この奨学金を大事に使わせていただき、ますます研究に励みたい。」(雷さん)など、それぞれがお礼の言葉を述べた。

「南富士産業奨学金」授与式

南富士産業株式会社奨学金授与式が7月22日に本学応接室で行われた。

本奨学金は、南富士産業による向学心に燃える優秀な学生に対し学費の一部を援助することにより、国際社会、文化に貢献する人材育成の一助とすることを目的に設立され、今年度で6回目を迎えた。

「お茶とこれからのビジネス」を論文テーマに募集が行われ、国際関係学部3年関紅歌さんが採用された。

授与式では、南富士産業株式会社の杉山定久代

表取締役社長から奨学金が贈られ、奨学生の関さんは「日本と中国の国際貿易発展の力になれるように勉強したい。」とお礼の言葉を述べた。



「この喜びを伝えるために、まずは故郷の家族へ手紙を書くことにします。」(游さん)など、それぞれがお礼の言葉を述べた。



勉強に専念しながら生活していく上で大きな支えとなっています。今後もさらなる努力を続けます。」とお礼の言葉を述べた。



「駿河精機奨学金」授与式

駿河精機株式会社奨学金授与式が7月22日に本学応接室で行われた。

本奨学金は、駿河精機による経営理念の《天意創造》のもとに地域に密着した企業を目指し人材開発の一環として設立され、今年度で7回目を迎えた。

「人生で感動したこと」を論文テーマに募集が行われ、薬学部2年西中麻里子さん、経営情報学部1年游梓銘さんが採用された。

授与式では、駿河精機株式会社の望月信行取締役管理部長から奨学金を贈られ、奨学生からは

「万城食品奨学金」授与式

株式会社万城食品奨学金授与式が5月13日に三島市の万城食品本社にて行われた。

本奨学金は、万城食品により中国出身の留学生への奨学金支給を目的として設立され、今年度で6回目を迎えた。株式会社万城食品の意向により、薬学部3年劉凱さんが、4、5回目に引き続き今年度も採用された。

授与式では、株式会社万城食品の米山寛代表取締役から目録を贈られ、劉さんが「この奨学金は

『21世紀の国際社会を考える』 - 静岡県立大学全学共通科目テキストブック

国際関係学部国際政治経済コースの教員12名が、全学共通科目のテキストブックをつくりました(六鹿茂夫・小久保康之・前山亮吉編著、222頁、非売品。)

平成9年度から始まったオムニバス形式の講義「現代の国際社会(A)」の内容を、本学創立15周年記念事業「学術フォーラム」のための学長特別研究費(特別推進研究)でまとめたものです。

国際政治(特に地域研究)・国際経済・国際法の最新情報をわかりやすく解説したテキストに仕上がっており、本年4月からの授業でも好評です。非売品ですが、頒布等ご希望の方は国際関係学部・前山まで御連絡ください。<国際関係学部助教授・広報委員前山亮吉(内5265)>



日頃から考えていることを発表してみよう！
スピーチ発表者・文芸作品 大募集

はばたき寄金では、学生スピーチコンテストの参加者募集、学生文芸コンクールの作品を募集しています。(詳細は学内に掲示してあるポスターをご覧ください。)

- 応募資格** 静岡県立大学の全学生・研究生
- 募集締切** 平成14年10月11日(金)
- 賞及び賞品** 最優秀賞 賞状及び副賞(図書券または商品券5万円分)
その他優秀賞、参加賞等があります。

スピーチコンテスト(発表日、11月2日(土))

募集テーマ 『FIFAワールドカップを見て思ったこと』

- 日本人学生の部 英語スピーチ
英文ワープロ原稿A4版3枚以内
- 留学生の部 日本語スピーチ
日本語でA4版ワープロ原稿2000字以内

文芸コンクール

- 文芸部門**
 - 短編小説 400字原稿用紙20枚以上
 - 短歌 10首(題をつけること)
 - 俳句 10句(題をつけること)
 - 紀行文 400字原稿用紙10枚以内
 - 詩 自由

- 評論部門**
 - 指定課題(次の2課題から選択)
『これでいいのか日本』 『新しい大学づくり』
400字詰め原稿用紙10枚以上



昨年のスピーチコンテストの様子

応募・問い合わせ先：事務局企画スタッフ(管理棟2階) 電話054-264-5103



日本水環境学会功労賞を受賞
食品栄養科学部 木苗 直秀 教授



食品栄養科学部の木苗教授は6月26日に開催された日本水環境学会第22回通常総会で30周年功労賞を受賞した。この賞は日本水環境学会から5年毎に学会活動に功績があった研究者を対象に贈られるもので、日本水質汚濁学会から現在の日本水環境学会への名称変更を含む将来構想検討委員会委員としての活動のほか、論文査読委員、中部地区評議員、理事などを歴任し、さらに国内、国外での水質評価に関する研究活動が評価対象となったものである。

受賞

平成14年度日本生薬学会 学術奨励賞
薬学部生薬学教室 阿部 郁朗 講師



対象課題「生合成酵素反応機構の解析を基盤とする新規生物活性物質の検索」

これは生薬学及びこれに関連する領域で顕著な学術上の業績があり、将来の発展が期待される個人に対して、日本生薬学会が毎年表彰している。今回の受賞は、同氏が静岡県立大学に着任してからの4年間の研究成果が評価されたもので、9月5日に開催される第49回日本生薬学会年会（福岡）にて表彰及び受賞講演を行う予定となっている。また、同氏はこの年会の「植物二次代謝研究における最近のトピック」と題するシンポジウムにおいても、「植物由来ポリケチド合成酵素の触媒機能の多様性と非天然型新規化合物ライブラリーの構築」の演題にて招待講演を行う。薬用天然物生合成酵素の精密機能解析を基盤とする創薬研究の今後の発展が期待される。

平成14年度日本薬学会東海支部奨励賞受賞
薬学部生化学教室 左 一八 助手



平成14年7月6日、本学にて開催された平成14年度日本薬学会東海支部大会において、本学薬学部左一八助手が本年度の日本薬学会東海支部奨励賞を受賞した。左一八助手は、本学の前身である静岡薬科大学を卒業後、修士課程に進学、さらに東京大学へと進み博士号を取得した。理化学研究所、米国オクラホマ大学で研究を続け、平成10年5月より本学薬学部生化学教室に勤務している。静岡薬科大学在籍当時より、一貫して細胞膜表面に存在する複合糖質に関する研究を行い、今回、「細胞間認識に關与する機能的複合糖質分子に関する研究」で本奨励賞を受賞した。今後、更なる活躍が期待される。

第8回国際リポソーム学会でポスター優秀賞を受賞
大学院薬学研究科修士課程2年 近藤 雅美さん



去る5月21日から25日までベルリンで第8回国際リポソーム学会（Liposome Research Days Conference）が開催され、当大学からは2教室8演題の発表と1演題の講演がなされた。この学会で本学大学院薬学研究科修士課程2年の近藤雅美さん（医薬生命化学教室、奥直人教授）がポスター優秀賞を受賞した。近藤さんは「膜型マトリクスメタロプロテイナーゼ1を標的とするペプチドで修飾したリポソームによる腫瘍新生血管傷害療法の確立」という発表を行い、がんの増殖に必要な新生血管を標的とした薬物送達を目的として、新生血管に存在する膜型酵素を標的としたがん治療法の基礎研究の成果を報告した。この研究が高く評価された。第7回の浅井君に次いで2大会連続で日本人が選ばれたことは快挙である。近藤さんには2004年に台湾で開かれる第9回国際リポソーム学会の宿泊参加費免除の特典が与えられる。

平成14年度 科学研究費採択状況

年度別	申請件数	採択件数	採択率
H11	176	63	35.8%
H12	194	59	30.4%
H13	181	53	31.0%
H14	210	64	30.5%

部局別採択状況 平成14年度			
部局別	申請件数	採択件数	採択率
薬学部	85	29	34.1%
食品栄養科学部	34	8	23.5%
国際関係学部	15	8	53.3%
経営情報学部	17	3	17.6%
看護学部	25	8	32.0%
院生活健康科学研究科	34	8	23.5%
合計	210	64	30.5%

* 国際関係学研究科は国際関係学部、環境科学研究所は生活健康科学研究科に併せ計上

* 申請件数、採択件数ともに継続課題を含む

平成14年度 新規採択されたテーマ

基盤研究(C)(2)

水野かほる	国際関係学部助教授	司法通訳をめぐる問題とその比較文化的考察
森山 優	国際関係学部講師	日米開戦外交のクロス・アーカイバル研究
吉村紀子	国際関係学部教授	実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指すシラバスの研究開発
渡部和雄	経営情報学部教授	電子商取引における中間業者の新しい役割と方策
森田克徳	経営情報学部講師	争覇の流通革命－革新的経営管理の構図
岩堀恵祐	環境科学研究所教授	免疫化学・分子生物学的手法を用いたスカム菌叢の解析
鈴木 隆	薬学部助教授	パラインフルエンザウイルスのシアロ糖鎖受容体結合領域の構造解明と感染制御
吹野洋子	食品栄養科学部助教授	緑茶飲用のインスリン抵抗性、炎症マーカーの低下作用に関する無作為化比較試験
藤井 敏	薬学部教授	生体高分子の動的構造のX線結晶学的解明と医療を指向した機能との関連研究
菅谷純子	薬学部助教授	グルクロン酸抱合酵素転写調節領域の変異解析による体質性黄疸発症要因の解明
田邊由幸	薬学部助手	肺動脈におけるメカノトランスダクション機構の解明と肺高血圧症への実験治療学的応用
比嘉肖江	看護学部講師	患者および看護者のspiritualityの構造とその規定要因に関する研究
下位香代子	環境科学研究所助教授	環境中および生体内で生成するハロゲン置換体の解毒代謝と乳癌発生への影響
阿部郁朗	薬学部講師	生合成酵素を用いた非天然型新規化合物ライブラリーの構築
松田正巳	看護学部教授	保健・福祉・看護の非営利・共同組織の人材育成・運営に関する研究

萌芽研究

出川雅邦	薬学部教授	環境化学物質による非神経組織障害と神経栄養因子誘導との関連性
鈴木啓子	看護学部講師	精神科における危険防止のための介入技術の開発に関する研究

若手研究(B)

湖中真哉	国際関係学部助手	東アフリカ・マー語系社会における物質文化と商品経済の変遷に関する人類学的研究
福永有夏	国際関係学部講師	米国アンチダンピング法の運用の研究
鈴木竜太	経営情報学部講師	日本型キャリア発達論に関する実証研究
吉成浩一	薬学部講師	肝薬物代謝酵素レベルに影響を及ぼす核内受容体CAR遺伝子の発現制御機構の解明
黄倉 崇	薬学部助手	微小透析法を用いたオピオイド鎮痛薬に作用部位における薬物濃度と薬理作用の解析
永田文子	看護学部助手	在日外国人健康支援に関するNPO（非営利組織）活動の有効性評価
大屋浩美	看護学部助手	看護職が受ける精神病患者による暴力的行為に関する研究
石村佳代子	看護学部助手	精神科外来における看護活動の実態に関する研究～看護相談に焦点を当てて
増田修一	食品栄養科学部助手	緑茶成分と他の植物ポリフェノール類の体内挙動と胃がん予防に関する研究
大浦 健	環境科学研究所助手	大気環境における塩素化多環芳香族炭化水素の動態解析並びに生態影響評価
牧野正和	環境科学研究所講師	臭素化・塩素化ダイオキシン異性体の構造特性に基づくc-GCRT予測モデルの構築
伊吹裕子	環境科学研究所助手	免疫機能に対する大気汚染物質と光の複合影響に関する研究
宮田直幸	環境科学研究所助手	個相に吸着した多環芳香族炭化水素の微生物による輸送・分解特性の評価

特定領域研究(2)

武田厚司	薬学部助教授	生体必須微量元素の動態を利用した新規脳腫瘍画像診断薬剤の開発
------	--------	--------------------------------

研究採択者(継続分)

基盤研究(A01)	小久保康之（国際関係学部教授）
基盤研究(A02)	西田ひろ子（国際関係学部教授）
基盤研究(B01)	鈴木康夫（薬学部教授）、中山慶子（国際関係学部教授）
基盤研究(B02)	奥直人（薬学部教授）、鈴木康夫（同教授）、中山貢一（同教授）、野口博司（同教授）、増沢俊幸（同助教授）、鈴木裕一（食品栄養科学部教授）、小林裕和（生活健康科学研究科助教授）
基盤研究(C01)	中山勉（食品栄養科学部教授）
基盤研究(C02)	田中圭（薬学部教授）、豊岡利正（同教授）、池田潔（同助教授）、石川智久（同助教授）、武田厚司（同助教授）、森本俊明（同助教授）、小原一男（同講師）、加藤善久（同講師）、竹元万寿美（同講師）、海野けい子（同助手）、伊勢村護（食品栄養科学部教授）、貝沼やす子（同教授）、木苗直秀（同教授）、土井まつ子（看護学部教授）、矢野正子（同教授）、山口正義（生活健康科学研究科教授）
若手研究(B)	池本守（薬学部講師）、加藤大（同講師）、駿河和仁（食品栄養科学部助手）
特定領域研究(2)	阿部郁朗（薬学部講師）
特別研究員	研究指導員・奥直人（薬学部教授）、研究員・竹内良人

図書館だより

「大学図書館職員長期研修」参加記

附属図書館 福石 妙子

はじめに

平成14年7月8日～26日の3週間、「大学図書館職員長期研修」が開催されました。これは文部科学省と図書館情報大学との共催で、主として国立大学図書館の職員を対象に毎年行われているものですが、この度、公立大学図書館協議会からの推薦という形で参加の機会を得ました。

研修は講義を中心としながらも、関連機関の見学、討議、実習などが取り入れられ、大変興味深いものでした。第一線の講師陣による講義は刺激的で、日常業務に埋もれていると見落としがちな最新の動向についての情報や知識を体系的に得ることができ、今後の大学図書館のあり方について様々な角度から考えることができたと思っています。以下、研修を通じて強く感じたことを記してみたいと思います。

<大学図書館の機能>

大学改革の動きや大学をめぐる環境の変化には著しいものがありますが、研修では国立大法人化、大学図書館の管理・運営のあり方、電子ジャーナルの導入や電子図書館機能の充実・拡充にむけての政策的・理論的・技術的な動向を中心に、海外図書館との相互協力やメタデータ・データベース構築の事業なども紹介されました。図書館はこれらの様々な動きに早急に対応し、学術情報の流れの中にその存在をきちんと位置付けていかなければならないということを強く感じました。

情報技術が著しく進展している今、図書館に強く求められているのは、様々な形で混在し満ち溢れている情報の中から必要な情報を的確に、タイムリーに効果的に配信することといえるでしょう。そのための電子図書館機能の構築は急務の課題です。今年度、国立大では課題を抱えながらも図書館コンソーシアムによる電子ジャーナルの本格的な導入が始まりましたが、本学では今後の課題となっています。対応の遅れは大学間格差、情報格差をもたらす結果となるのではと危惧しています。

一方で、これまでの紙媒体の資料を中心としたコレクションの収集や学習用図書の実、パソコンや情報コンセントの設置などを含めた学習図書

館としての機能整備も大きな課題です。大学の主たる構成員である学生が主体的、積極的に学習に取り組める環境づくりを強く意識していかなければなりません。

<組織と図書館員のあり方>

大学図書館の役割は、「図書館」という語が与える従来のイメージから大きく変化しています。図書館に与えられた課題の広がりや変化の早さに迅速に対応できる組織のあり方、人材養成のあり方が問われているように思います。自己研鑽の重要性はいうまでもありませんが、高い専門性を持ち、将来にわたって大学図書館の運営に責任を持てる職員養成プログラムや、大学図書館として高い価値を生み出していける組織への再構築が必要とされているのではないのでしょうか。図書館単独では対応しきれない問題も多いのではないかと考えられます。現状の延長線上からの飛躍が求められているのかもしれない。

「改革を進めようとするときに最も大切なことは、原理原則に戻り、本質的なことを充分見極めること」という講師の先生の言葉が強く心に残っています。私たちのmissionは何か、を常に意識しながら、大学をめぐる様々な情報を職員全員で共有し、課題に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、このような長期にわたる研修に参加の機会を与えてくださった関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

本学教員からの著書寄贈

先生の著書を寄贈していただきました。

本学教員著書 (平成14年6月以降)

山口 正義教授 (生活健康科学研究科)

・BIOMEDICAL RESEARCH ON TRACE ELEMENTS 13巻1号～日本微量元素学会2002年(2階閲覧室雑誌コーナーに配置)

中山 勉教授(食品栄養科学部)

・栄養・健康科学シリーズ:食品学総論、食品学各論 改訂第3版(請求記号 498.51/Ka 86 2階閲覧室配置)

心肺蘇生法講習を受けて

防災ボランティアサークル「防'z」代表 加藤 翼

先輩たちが立ち上げた防災ボランティアサークルも早いもので3年が経過しようとしています。小規模な活動ながら今年度に入りおとり賞を頂き、メンバー一同更なる飛躍を目指して奮闘しています。

6月9日に我々の活動の一つである、消防署の方を招いての心肺蘇生法の講習会が行われました。今回で2度目であるこの講習会は、様々な人の協力で無事終了することができました。心肺蘇生法は自動車学校で免許を取得するときなど、カリキュラムに含まれていますが、意外にしっかりと記憶している人が少ないのが現状です。日常において心肺蘇生法を使う機会は実に多く、いざ自分がその場面に直面した時など大変役に立つことがあります。

そこで今回講習に参加していただいた人の感想を紹介し、心肺蘇生法がどのようなものが改めて皆さんに知ってもらいたいと思います。

看護学部看護学科 2年 鷲巣 友紀

6月9日に、看護学部棟1Fにおいて、防'z主催による心肺蘇生法講習会が行われた。

消防署東豊田所の消防士3名をお招きして、看護学部生15名、教員1名の参加者で、人工呼吸、心臓マッサージの実技練習と心肺蘇生に関する講習を受けた。今回から、内容が変更になったらしく、前回の講習を受けた人はわかりやすく、簡単になったと言っていた。

講習では、救急車を呼ぶにあたっての注意事項や、止血法などに関する基礎的な講義を受け、実技では人形を2体使って人工呼吸、心臓マッサージの練習を行った。今回は参加者があまり多くはなく、人形を2体使っての練習であったため、一人一人たつぱりと練習することができた。人形を使って実際にやってみると、「思ったより大変であった。」や「空気がうまく入っていかなくて苦労した。」などの意見があり、こうした技術訓練の大切さがわかった。消防署の方の熱心な指導の下、参加者は皆真剣に取り組み、何回も技術練習を行っていた。男性唯一の参加者は、救急車が来るまでを想定して約6分間心肺



大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻生態化学研究室 薬科 力

今年度の大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻の研究室公開がさる6月22日(土)に行われました。本行事は、環境に関する分野で大学院への進学を考えている大学生や当専攻への受験希望者に対して、学部を持たない当専攻が研究・教育内容を紹介する目的で、例年、入学者選抜試験の前のこの時期に行っているものです。当日は梅雨の中休みといった感じで天候に恵まれ、本行事への参加者は約40名であり、例年より多くの方に来て頂きました。壁面掲示板に展示されたポスターや研究室内の教員や大学院生との対話等により、当専攻13研究室毎の研究内容や当専攻の施設・設備についての詳しい説明が参加者に対して行われ、参加者からも多くの質問が出るなど、概ね好評のうちに終了しました。

20世紀末より「環境」に対する関心が高まり、新たな世紀を迎えその関心はますます高まる傾向にあります。環境に関する研究を行っている我々は、多くの方に情報を発信し、環境に関する諸問

題に興味を持って頂くために、このような機会をこれからも続けていこうと考えていますので、学生のみならず多くの方々の参加を期待しています。

先にも述べましたが、当専攻は学部を持たない独立型の専攻であることから、多くの方に研究内容を知って頂く必要があります。環境問題について興味のある本学の学生、また当専攻への入学を希望される4年生の皆さんは、本行事に限らず、いつでも研究室を訪問して下さい。



病院実習を終えて

薬学部衛生化学教室 4年 福田 和夫

病院実習では、学校で学ぶことのできない数多くの貴重な体験をした。病院でのチーム医療における薬剤師業務の位置付けや、その重要性をほんの一部だが体験、見学することができた。

今回の実習で印象に残った事は、やはり実際に患者と接することができる病棟業務だ。服薬指導や糖尿病教室を見学させて頂いた時、患者にわかるように説明することの難しさを感じ取った。薬の知識を与えるのはもちろんのこと、患者とのコミュニケーションを大切にすることで信頼を得て、治療がより円滑に行えるようにするのも薬剤師の役目だ。

これから薬剤師が活躍できる大きな業務である治験についても大変興味を持った。治験には大き

な問題がたくさんある。日本人は治験に対してあまり良いイメージを持っていないことから参加する人が少ないことや、治験自体に時間がかかり過ぎて、承認されるまでに多くの時間がかかってしまうことなどだ。そこに、治験専門の薬剤師がかかわることができ、たくさんの薬が短時間で承認されれば、多くの難病人が助かるようになる。

このように薬学を勉強して自分の興味のあるところを実際に現場で見学・体験させていただき、とても充実した日々を送ることができた。薬剤師にとって何よりも大切なことは、患者の気持ちを常に考えて行動することであると、今回の実習で実感した。

シンガポール航空の機内にて

経営情報学部 小島 茂

先月、シンガポールからの帰国途上、機内でおみやげの注文書を、通りがかりのスチュワーデスに渡したところ、突然、「静岡県立大学の先生ではありませんか?」と聞かれ面食らった。「なぜ、わかるのですか?」とたずねると、「注文書の住所に草薙って書いてあったものですから。実は、私、卒業生なんです。」

そういえば、何年か前の卒論審査のとき、就職先について聞いたら、スチュワーデスになりますと答えた女子学生がいたなあ。でも、たしか全日空だったような??

「私、経営情報学部ではなく国際関係学部の卒業生なんです。」「そうですか。で、どうして私のことを知っているんですか?」

「先生の研究室の前にショーウィンドウがあるでしょう。私よくあそこを歩いて見ていたのでわかるんです。」

ショーウィンドウ、この端正なスチュワーデスも学生のころ見ていてくれたんだと思うと、人通りの少ない2階のフロアでコツコツと展示を続けてきた努力が一瞬報われた思いがした。

その後、話が弾み、彼女は、学生時代はESSのシェークスピア劇団に所属し演劇をしていたこと、国際関係学部では言語文化に属し英文学の榊先生の指導を受けていたこと、静鉄草薙駅近くのパンのバンデロール店でアルバイトしていたことなどがわかった。そして2年前、少女時代からの夢だったスチュワーデスになるべくいくつかのエアラインを受験し、結果、シンガポール航空に決まったのだった。

シンガポール航空のスチュワーデスの制服はチャイナドレス風の民族衣装で、色も模様も艶やか。マイレージ会員のためときどき利用するユナイテッド航空より食事サービスもよい。

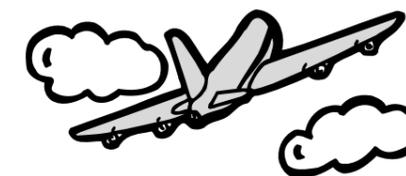
「シンガポール航空に就職してよかったですね!」という、同僚にもいろいろな国の人がい

てそうしたグローバルな職場環境がたいへん気に入っているという。現在は、成田、ロスアンゼルス、シンガポールを往来している。「ラスベガスには行きました?」と聞くとまだとのこと。せっかくアメリカに行きながら、休憩を取ってまた仕事に戻るだけで主だった旅行はしていないらしい。ラスベガスはロスから1時間で行けるし、今世界でもっとも注目されているエキサイティングな都市だから、次回は是非立ち寄りよう薦めておいた。

途中、彼女は乗務員室に戻り、シンガポール航空の青いおみやげ袋をもってきて、「これどうぞ」と差し出した。「いいんですか?」といって袋を開けてみると、シンガポール航空のスチュワーデスの写真、トランプ、ソックス、スリッパ、日記帳をもった旅行姿のスヌーピーなどのグッズが入っている。榊先生とバンデロールの店長の分もメモとともに手渡された。

帰国して早速、お二人におみやげ袋を渡しに行った。留守中だった榊先生からは「自分もいつかシンガポール航空の機内で彼女と出会ってみたい」というメモを頂いた。バンデロールの店長はたいそう驚いた様子で、あの娘はしっかり者で明るくおかげで店もとても助かったと懐かしそうに語った。

それにしても、おみやげの注文書を渡した、巡回中のスチュワーデスが卒業生だったとは何という偶然! 今日であの日からちょうど1ヶ月。旅姿のスヌーピーは、現在、研究室前のショーウィンドウのなかに飾ってある。



研究室・ゼミ紹介

生命科学にむけて躍動する研究室

薬学部医薬生命化学教室

生命現象を直接的に目で見える方法（ビジュアル化）はからだの仕組みを理解するために、また、病気の原因を探り診断するために重要な方法です。分子レベル、細胞レベルから生体レベルまでの機能解析を目的としたビジュアル化はコンピュータの進歩などで飛躍的に進展してきました。医療現場でのX線CTやMRIなどの画像診断は病巣部位の検出、治療効果の判定に欠かせないものです。ビジュアル化には放射線が古くから利用されています。

当研究室は放射性同位元素、放射線の基礎や取扱についての教育などを通して薬学教育に貢献しています。一方、研究は高齢化にともない重要な問題となっているがんや生活習慣病、脳の働きや老化をテーマとしています。がんの転移機構を明らかにし、新しい転移抑制剤を開発する研究、新しい遺伝子治療法の開発研究、微量金属の生理作用に着目した脳機能の解析研究などです。現在の

講座名は上記のような発展的な研究展開から2年前に放射薬品学から改名されました。今年度の研究室メンバーは29名であり、それぞれ独創的な視点から各研究テーマに取り組んでいます。また、研究の合間におけるスポーツにも積極的に参加していますが、昨年は学内研究室対抗ソフトボール大会、バトミントン大会に優勝することができました。今年もこれまで以上に教員、研究室員が一丸となって研究や教育、スポーツにがんばっています。日々活気に満ちた研究室です。



スペインに魅了されて

国際関係学部 大楠 栄三ゼミ（スペイン研究）

国際関係学部「スペイン学科」という看板を掲げ、スペインに魅了された学生（3年生4名、4年生5名、スペイン長期留学1名）と教員1名が集まり営んでいます。ゼミ生の関心は、歴史、美術、建築、日西交流、民族集団、民族語、女性研究、料理、映画とスペインのさまざまな領域に向けられており（ちなみに私の専門は文学）、ゼミ全体としてその歴史の中で多面的にスペインを眺めて全体像を把握し、そこからスペインの本質に迫ることができればと考えています。

スペイン学をする上で邦文資料が少ないという現状を考慮し、卒論に向けての発表をこなし、毎回かなりの量のスペイン語文献を輪読しています。スペイン語のテキストをある一定以上のスピードで読みこなす力をつけようと目論んでいるわけですが、ノルマが終わるまでいつまでも読み続けるため、そのうち頭はもうろうとしてきて、私にとっても苦行と化すわけで……ゼミ生の生の声は「予習をマメにやらないと月曜の夜に泣く

ことになり、毎週がんばらないとついていけません。一週間は火曜日を中心にまわっています。」「毎回気が遠くなるようなスペイン語の予習は大変ですが、難しい内容を自分で理解できた時の喜びや、長い文献を読み終えた時の達成感を味わえるのは、このゼミにいるからこそだと思います！」「ゼミ中は答えられるか緊張しっぱなしだけどメンバーが仲良しだから苦にならない！」「おいしいコーヒーの飲めるゼミです」「スペイン語の輪読は正直大変なものでしたが、やり終えた後の充実感がありますし、スペイン語の読解力を養うだけでなく、忍耐力と集中力を養うことができましたように思います」（卒業生）



院生からのメッセージ

「学部から大学院へ」

生活健康科学研究科 食品栄養科学専攻
吉田 佳代（微生物生産学研究室、修士2年）



実験中の私（微生物生産学研究室）

私が愛知県から静岡に来て、もう6年目となりました。食品栄養科学部からそのまま大学院に進み、今は、修士2年で実験研究と平行して、就職活動をしています。

この大学を選んだ理由は2つあります。1つは、白衣が着たかったこと。もう1つは、大学案内に書いてあった、バイオテクノロジーという言葉の響きに惹かれました。しかし当時の私は、その言葉の意味さえ、よくわかっていませんでした。バイオテクノロジーとはバイオとテクノロジーという2つの言葉の合成語で、直訳すると「生物を扱う技術」ということです。つまり、植物、動物あるいは微生物を利用しヒトの生活に役立てる技術のことです。大学で基礎的な知識を勉強し、大学院でそれに関連した研究を行っています。

研究の内容は、食品の保存・加工の際に必要な新しい抗酸化物質、酸化酵素阻害物質を、微生物の代謝産物の中から見つけ出すことです。私が所属していた学部は、3年生になると、各研究室ごとの実験があり、様々な分野の研究に触れる機会があります。遺伝子を扱ったり、調理方法での味の変化を見たり、食品の機能性成分に関する実験もありました。数あるそれらの分野の中で、微生物生産学研究室を選んだのは、その学生実験が楽しかったからです。やはり、やっていて興味が湧くことは、大切なことだと思います。この研究は自分の手で作業をして、目と鼻（色、形、におい等）を使って実験が出来ます。遺伝子関連にも興味がありましたが、私は大雑把な性格のためか、目に見えないような小さい物を扱うのは苦手でした。

学部4年で研究室に配属になり、自分の研究テーマの実験が始まりました。そのときは、大学院に進むつもりはなく、就職しようと考えていたのですが、研究テーマに本格的に取り組んでみると、思っていた以上に実験はやりがいのあるものでした。やることなすこと知らないことばかりで、もう少し勉強をしてみてもいいのではないかなと思うようになりました。また、研究の経験はこの機会しかできないと考え、大学院進学を決めました。

実際に大学院に入ってみると、こんな私でも、専門的な知識は、知らず知らずのうちに身につけていました。また、受身で与えられたものを行っているのではなく、自分で進めていくという楽し

さもありません。

大学院で学んだ知識と経験を生かして、就職活動をしているのですが、なかなかこのご時世、就職にこぎつけるのは容易ではありません。私はまだ、就職が決まっています。就職活動をしているこの半年間で、いろいろなことが見えてきました。その例を挙げてみると、会社の雰囲気というのは、それぞれ違うことがわかりました。採用担当者の対応だけでなく、働いている社員の感じは会社ごとにかなり違います。就職活動とは、自分が判断されることですが、こちらが会社を観察することも楽しいですし、必要なことだと思います。

ある先輩が、「就職先が決まるのは、運とタイミングだから、そのうち自分とあった会社があるよ」と言っていました。その言葉を信じて、自分の性格と学んできたものと、それらに合う会社を早く見つけたいと願っています。

さて、この県立大学に女子サッカー部があるのをご存知ですか。昔は、全国大会にも出場したこともあります。私は、学部の時サッカー部に入っていて、夏には真っ黒に日焼けして、人ごみにいても目立ってしまっていました。勉強と部活とバイトとをやりこなしていた4年間は、友達も多かったですし、充実した日々でした。今の女サカは人手不足で困っているそうです。これを読んで、興味を持ってくれた人は、月、木は16:30~、土曜日は9:00~サッカーをやっているの、グラウンドに遊びにきてください。未経験者でも大丈夫ですよ。がんばり次第で、メキメキ上達しますよ。どこの部活も、人手不足で困っているようなので、女サカに限らず、部活に入りましょう。なかなかよいものですよ（2002年6月21日）

新入生20人に聞きました

県大の第一印象

将来の抱負

一言

梶谷 香奈子（食品栄養科学部 藤枝市）

モニュメントは、雨が降ったら水が上からあふれてくると思ってました。初心を忘れず、勉学に励み、良き友達を多く作りたいと思います。のんたんへ一言。これからもすてきな歌声聞かせて下さい 大好きです。応援してます！！

河田 恵美（薬学部 群馬県）

綺麗な校舎、自然、空気、富士山！加えて先輩方や先生方も親切な人ばかりで最高！！医療チームの中で、医師と対等に活躍できる薬剤師になりたいです。患者さんたちと良くコミュニケーションをとりたいです。今年から始まる夏休みの制度に一言。何で理系は短いんですか？

加古 大也（食品栄養科学部 愛知県）

レンガ造りの校舎は綺麗だけど、たどりつくまでに一苦労。坂、多すぎ（涙）身近なことだけれど、単位を落とさずに進級し、卒業したい。そして大学院に行ってもっと知識を深めたい。いつか役立つことを信じて。カサを盗んだ人、返して下さい。一週間で二本も盗むなんてヒドイですっ！

村瀬 真代（食品栄養科学部 岐阜県）

公立なのにすごくキレイ！！緑も多くてすんばらしい。図書館から富士山見えたのは感動！勉強はもちろんのこと、部活も精一杯やり、倒れない程度に何事も頑張りたい。エアコンをつけてほしい。梅雨時はしぬ・・・あと、食堂もうちょい安くして下さい。

張 暁君（国際関係学部 中国）

緑に囲まれた校舎はとてもすてきだと思った。国際ボランティア組織のメンバーになりたいので、大学で精一杯勉強するつもりだが、言語の山を乗り越えるのは最初の山場のようだ。両親にひと言。今まで甘やかしてきた娘が夢を実現させるため、日本で頑張っているのに応援し続けてください。

郑 宏盛（国際関係学部 中国）

学校はきれいで勉強にはとてもいい環境だと思えます。特に有名な教授がたくさんいて、もっといい勉強が出来ると思えます。英会話の解力をしっかり身につけた上で、国際政治、経済を勉強して、将来どんな分野であっても少し国際交流、国際協力に役立てる仕事に就きたいと思っています。留学生にとっては、日本で生活しながら勉強するのは大変けれども、毎日バイトと勉強が忙しくて、とても充実しています。

斗沢 和愛（国際関係学部 青森県）

すごく綺麗！緑も多く、キャンパスって感じ！天気の良い日にはキャンパス内を歩いているのが嬉しくなります。校舎のづくりも面白いので、とりあえず色々探検できます。知識と心の豊かな人間になりたい。もっと勉強して、世界に出て堂々と仕事ができる人材になれるよう、日々がんばります。メインストリートの坂にひと言：この学校で急いではいけません。学生ホール2階の売店まで来ると、頂上に着いた！と感じるのは私だけでしょうか。

原田 知明（国際関係学部 熊本県）

建物はすごくきれいだと思いました。ただ、坂がつらいです。留学とか、高校の時にできなかったことをやってみたいです。あとは4年で卒業することです。地元の友人へ。来年こそは春が来ますように。

小島 有香子（経営情報学部 愛知県）

れんが造りでとってもきれいでびっくりしました。でも冷暖房がないときいてかなりショックです。将来の夢とかはまだないのですが、大学では経営を勉強したくてこの大学に入ったので経営系を一生懸命やりたいです。学校にひと言：冷暖房経情にもつけてください。

田口 かおり（経営情報学部 茨城県）

すごくすてきな校舎だと思いました。でも坂がとても多くて大変そうだなと思いました。強く思っていることはないんですが、4年間のうちに自分を磨きたいです。自分に厳しく、人にやさしくしたいです。おじいちゃんにひと言：長期休暇にはちゃんと帰ります。

荻 真理子（経営情報学部 富士宮市）

周りに緑がとてもたくさんあり、大学自体が一つの町のように見えました。私は元々、パソコンがやりたくてこの大学のこの学部に入りました。でも、実際に入学し、今まで色々な講義に出ていく中で、経営や、他の面にも興味を持ち始めました。大学では、自分の世界をより一層広げ、様々なことにチャレンジしたいと思っています。学部棟の前でタバコを吸うのはやめて下さい。

佐藤 祐希（経営情報学部 富士市）

緑の丘の上に赤レンガの校舎がきれいでした。もっと友達を増やしたいです。夏休み等を利用して何かの資格をとりたいです。経営情報学部なので、もっとパソコンについて学びたいです。もっと学食をおいしく、メニューも豊富に、値段を安くして下さい。

見山 陽子（食品栄養科学部 愛知県）

レンガづくしで大学っぽくなくていいと思った。たて長だと思った。管理栄養師の国家試験に合格する。どっかに就職して普通にお金を稼ぐ。単位を落とさないようにする。上の購買は遠くてえらいので、下にも作ってほしい。

齊藤 ゆにば（薬学部 埼玉県）

ここが大学？と、外観のキレイさに驚いて、ここなら来てもいいな、と思いました。薬剤師の卵として身に付けるべきものを修得し、又、様々な人達と過ごす中で人間的に成長できるような学生生活を送りたいです。クーラーを使用して欲しいです。せめてドライ機能を...

近江 明大（薬学部 宮城県）

吹き抜けとガラス張り・開閉式の天井が明るく気持ちがいいと思いました。アレルギー性鼻炎で長い間苦しんできたので、アレルギーを治療するか、そこまでいなくても抑制する薬をつくりたいと思っています。静岡は暑いです。授業中頭が痛くなるので早く冷房をつけてもらいたいです。

秋山 文香（看護学部 富士市）

受験の下見で、初めて県大のキャンパスを見た時、赤レンガ作りにとても感動し、絶対合格し、県大でキャンパスライフを送りたいと思いました。講義で寝ないようにしたいです。そして、単位をしっかりと取って国家試験に合格します。教育心理学のS田先生にひと言。毎回シャツが青なのは、私の気のせいですか？でも、そんな先生最高！！

大澤 典子（看護学部 沼津市）

レンガ造りの建物がきれいで、さすが大学！高校とは違うな、と感じました。将来、国境なき医師団や、青年海外協力隊に参加して、医療の面から病気・貧困に苦しむ人々を支援したいと思います。校舎を閉める時間をもっと遅くして下さい。8時30分まで開いているのが理想です。

寺田 麻理子（看護学部 静岡市）

校舎のレンガ色と坂に沿って植えられている木の緑色が合っていてきれいだった。広い視野を持った人になりたい。そして看護の知識と技術を身に付け、患者さんに好かれる看護師になりたい。ロッカーに一言。ロッカーが狭い。ロッカー間の通路も狭くて通りにくい。

松浦 円（看護学部 島田市）

慶応風のレンガ造りの校舎に魅せられつつも、意外な程長い坂には驚き！！秘スポットから見える富士山に感動しました。無事4年間で看護の道を修得し、看護のスペシャリストになる。機会さえあれば救命救急士の資格もとって、第一線でバリバリ働きたい。経営情報学部ひと言。MOドライブを看護学部いくつか譲って下さい...

第16回 剣祭 November 2-4

～ぶらりおいでよ剣祭～

ついに第16回剣祭がやってきます！今年のキャッチコピーは「ぶらりおいでよ剣祭」。県大の学生も教授も近所の方々も遠くの方々も、ぶらりと立ち寄って楽しめる企画が盛りだくさんです。我が剣祭実行委員会では、第16回剣祭をより楽しんでもらえるものにするために、様々な企画の準備を進めています。今年の剣祭は11月2日、3日、4日の3日間。剣祭の開催を宣言するオープニングセレモニーに始まり、話題のアカペラグループBaby Booのコンサート、カラオケバトル、様々な団体が参加する後夜祭に加え、常設企画として毎年好評のフリーマーケットや気軽に参加でき、賞品がもらえる×クイズ、スタンプラリーなど、剣祭実行委員会主催のイベントだけではなく、県大のサークル・部活によるステージ発表や模擬店が行われます。また、11月2日には研究室開放を行いますので、県大のゼミ・研究室の実際の研究内容にも触れることができます。

とにかく退屈知らずの3日間を過ごせること間違いなしです。みなさん11月の2,3,4日は是非、ぶらりと県大に立ち寄ってみてくださいね！



(昨年の剣祭の様子)

- 1日目 : オープニングセレモニー (10:25~10:40)
Baby Booコンサート (16:00開場)
- 2日目 : カラオケバトル (13:00~14:30)
- 3日目 : 後夜祭~Colorful Jelly~ (16:30~19:30)

お問い合わせ：静岡県立大学剣祭実行委員会

TEL 054-264-5075

剣祭実行委員会HP <http://www3.tokai.or.jp/tsurugi-16th/>

クラブ・サークル紹介

サッカー部

サッカー部は毎週火、水、金曜日の夕方と土曜日の午後に練習をしています。部員が約20人、マネージャーは11人います。マネの多さにはいつも驚かれ、マネが部員より多い時も...

サッカー部は個性的な人がいっぱいです。髪型がサッカーボールの人もいたし、テストやレポートがたまって単位を落としそうなのに部活に来る人もいます。基本的にみんなサッカーバカだと思います。1年生も入ったので、今は1年生のいろんな面白さを引き出しているところです。

こんな部活なのでいつも楽しく練習しています。部活=厳しい、というイメージは全くありません。



せん。しかし、1年間を通して色々な試合があるので、その試合に向けてみんな一生懸命に練習し、夏休みには合宿をしたりして少しでもいい成績ができるように頑張っています。そして、いい成績を出すことと同時に、打ち上げでおいしいお酒を飲むことが目的です。このようにサッカー部は楽しい部活です。
(栗田 智代)

写真部

現在、写真部は部員20名余りで、毎週水曜日に活動をしています。部員は主に大学から写真を始めた人が多く、各々が日ごろ撮った写真を見せ合ったり、写真についての話をしたりしています。最近では、雑誌のコンテストなどに参加したいと希望する人も多く、そうした人のためにも現像用具や暗室設備など、作品を集中してつくる環境が整っています。

昨年は、学内で4回、学外で2回の展示会を開きました。学外では特に静岡市主催の成人式イベントに参加し、自分たちの写真を多くの人に見てもらおう機会に恵まれました。また、この時に他大学との交流があり、今年の7月には静岡大学と合同写真展を行うことになりました。



題名『2002年6月18日』

今後も学内外を問わず、特に学内の展示会に力を入れて積極的な活動を行っていきたくと考えています。
(中原 卓彦)